

研究指導分野および担当者

研究指導分野	担当者	研究指導概要
環境教育・ESD(持続可能な開発のための教育)	阿部 治 教授	持続可能な社会をめざす総合的な環境教育／ESDについて、国内及びアジア太平洋地域における事例を元にした実証研究や政策研究。特に現在は地域創生としてのESD評価指標の開発とESD拠点形成に重点的に取り組んでいる。
音楽社会学、メディア文化論	井手口 彰典 准教授	これまで蓄積されてきた音楽社会学の主要な理論と、個別の音楽現象を具体的に調査研究していく上での実証的技法とを、一方に偏ることのないよう統合的に指導する。
メディア社会学、メディア史	井川 充雄 教授	マス・コミュニケーションやメディアについて、理論と実証の両面から研究を進められるように指導する。とりわけ、現代的な課題についても、その歴史的背景を考慮した研究ができるように指導を行う。
ニュースと世論の社会学、国際コミュニケーション論	黄 盛彬 教授	(1)世論または社会意識の形成におけるメディア・ジャーナリズムの影響、(2)メディア・コミュニケーションのグローバル化に関する研究。質的言説分析、フィールドワーク、インタビュー調査などの研究手法を用いて研究できるように指導を行う。
環境社会学	関 礼子 教授 (2017年度研究休暇)	環境社会学、地域環境論の視点から、環境と社会の問題について、フィールドで得たデータ重視の分析を軸に指導を行う。
家族社会学、格差論、マイノリティ論	岩間 暁子 教授	(1)格差・不平等の問題について階層、ジェンダー、民族・エスニシティに着目した複合的な分析・考察、(2)国際人権法や国連、欧州連合などにおいて用いられている、ナショナル、エスニック、宗教的、言語的な面で多数派とは異なる少数者を意味する伝統的な「マイノリティ」概念に基づきながら、マイノリティと移民の包摂に向けた課題の検討という二つの研究テーマを中心に指導する。いずれについても国際比較の視点、理論と実証のバランス、量的分析と質的分析の対話を重視した指導をおこなう。
現代社会学理論、ジェンダー論	吉澤 夏子 教授	文献講読により、社会学の基礎理論への理解を深めるとともに、ジェンダーの視点から現代社会を読み解く。
ジャーナリズム研究、ジャーナリズム史	橋本 晃 教授	米欧流のジャーナリズムスタディーズのディシプリンに基づき、ジャーナリズム思想(史)、社会文化史的ジャーナリズム史、社会学的ニュース研究、政治とメディア、戦争とメディア、米欧比較ジャーナリズムなどの指導を行う。
都市空間構造研究、ハウジング研究	高木 恒一 教授	都市社会学が蓄積してきた空間構造に関する理論に立脚する立場から指導を行う。また、近年開拓されつつある社会学的住宅研究(ハウジング)の知見を踏まえた調査研究の指導も行う。
メディア制度・産業論	砂川 浩慶 教授	マスメディアを中心とするメディアに関する制度、ジャーナリズム、産業、コンテンツ政策などの諸点から考察を行い、指導を行う。
文化社会学、文化政策研究、現代芸術論	小泉 元宏 准教授	美術・音楽・映像・パフォーマンスなどの諸芸術・文化をめぐる場や活動と、社会的諸主体・権力との関係性などに関する各自の問題意識やテーマに基づきながら、文化批評理論、現代芸術論、文化政策研究などの理論的研究と、質的研究、および実践活動への参加を通じた指導を行う。
ライフストーリー研究、生の社会学	小倉 康嗣 准教授 (2017年度春学期海外研究)	研究対象としてであれ、研究主体としてであれ、個人の生きられた経験や生き方からのアプローチを重視し、そのような質的調査研究について指導をおこなう。
宗教社会学、心理主義論	小池 靖 准教授	宗教社会学、心理主義論の研究指導。主に質的調査に基づく。
都市社会学	松本 康 教授	都市社会学全般にわたる理論と経験的研究——とくに、シカゴ社会学、ネオ・マルクス主義都市論、社会的ネットワーク、都市社会空間構造、都市政策——について指導する。
グローバル社会学論、マイグレーション論	水上 徹男 教授	マイグレーションに関する研究、とくに国際的な人の移動に着目する。エスニック・コミュニティの形成、その変貌をとらえる理論や概念、これまでの実証的な研究成果を参照とする。政策的には多文化主義等の展開、概念的にはトランスナショナルリズム等を扱う予定である。
情報行動論、エスノメソドロジー	是永 論 教授	テーマに関してオーディエンス論、言説分析、エスノメソドロジーといった学問的背景から考察するとともに、量的なデータ解析またはエスノグラフィーを含む質的な調査技法についてそれぞれ指導を行う。
映像人類学、地域研究(北米)	生井 英考 教授 (2017年度秋学期研究休暇)	儀典、祝祭、争乱、紛争などに関するアーカイヴ映像を素材に、象徴・神話研究の方法と実践を指導する。
地域社会学、コミュニティ・ガバナンス論	西山 志保 教授 (2017年度秋学期海外研究)	地域社会学、都市社会学の様々な理論をふまえて、コミュニティにおける政府セクター、市場セクター、市民セクターの間のガバナンス形成に関する研究の指導を行う。
国際社会学、エスニシティ論	石井香世子 准教授	エスニシティ論の視座から、移動・境界(域)・マイノリティに関する理論をふまえ、さまざまな様態の移動と、マイノリティに関する調査研究の指導を行う。
計量社会学、社会階層論	村瀬 洋一 准教授	計量政治社会学、社会階層研究、統計的社会調査法について指導を行う。とくに、国際化が進む中での不平等の現状、不平等意識や政治意識、各国の社会調査データの分析を指導する。構造方程式モデル等の分析法についても指導する。
都市、人文地理学、ジェンダー研究	太田 麻希子 助教	都市に関する地理学及び社会学の理論、フェミニストによるグローバリゼーション分析を踏まえた研究指導を行なう。
消費社会学論、歴史社会学、現代社会学論	貞包 英之 准教授	消費社会という視点から、現代社会について分析できるように指導する。対象は多様であって良いが、とくに歴史的視点と、都市という視点を複合して、消費社会の新たな可能性について考えられるようにしたい。
社会老年学、成熟社会学論	木下 康仁 教授	社会老年学、生涯発達論、成熟社会学論(社会の成熟と個人の成熟)と、主に国際比較研究と質的研究法について、指導を行う。
文化人類学、ディアスポラ研究、地域研究(中華圏)	木村 自 准教授	文化人類学の理論的動向を踏まえ、人の移動、ディアスポラ、国境を越えたコミュニティ、マイノリティについて、質的調査に基づく指導を行う。
メディア・コミュニケーション論、ネットワーク社会学論	木村 忠正 教授	オンライン、ネットメディアを中心とするメディア・コミュニケーション論、比較制度分析の視点を重視したネットワーク社会学論について、理論と実証、質的研究と量的研究との対話を重視しつつ指導する。
社会政策論、福祉社会学	野呂 芳明 教授	都市社会学、地域社会学、福祉社会学等の観点から、社会のさまざまな生活場面で生成するニーズと地域政策や福祉政策との相互関連性に関する調査研究の指導を行う。
労働社会学、比較労使関係論	李 旼珍 教授	グローバル経済、サービス経済、知識経済における多様な雇用形態、仕事の自律性、柔軟な働き方、ジェンダー格差、ワーク・ライフ・バランス問題、外国人労働者、職場民主主義、社会運動(あるいはコミュニティ)ユニオンなどを研究テーマとする。量的研究と質的研究の両方について指導する。
エスニック・メディア研究、オルタナティブ・メディア研究	林 怡燦 准教授	マスメディア理論、ジャーナリズム研究などの観点から、社会におけるマイノリティをめぐる報道や当事者によるメディア形成活動を中心に、理論的研究と質的調査の指導を行う。
デジタル・メディア研究、情報社会学論	和田 伸一郎 准教授	テクノロジーの進歩によって、インターネット上で次々に現れる諸サービスが、グローバル市場を背景としながら、社会とどのような形で関わる、もしくは摩擦を起こすのかについて、多角的な理論的観点から考察をおこない指導をおこないつつ、受講生とともに調査についてもおこなっていききたい。